

アフリカ子どもの本プロジェクト
2008年度 活動報告
ならびに
今後の活動予定

1、概況

ケニアの2つ目の図書館、シャンダ・ドリームライブラリーの開館と、「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」と題する図書展のスタートという大きな出来事がありました。

年度末には、プロジェクトのきっかけとなった本『エンザロ村のかまど』（福音館書店「たくさんのふしぎ」2004年2月号）の単行本化が決定し、活動が根づいてきたのを感じています。

2、会員数

プロジェクトの目的に賛同し、年会費1000円をおさめると会員となり、活動の報告を得られるという形で、改めて会員の募集を開始。年度末の会員数は35名です。

3、2008年度活動報告(2008.4-2009.3)

3-1 運営会の開催

毎月1回運営会を持ち、選書や図書展、イベント等の打ち合わせを行いました。

3-2 シャンダ・ドリームライブラリーオープン

ケニアの政情悪化により、当初の予定より遅れましたが、ケニアの2つめの図書館、カカメガの森に近いシャンダ村のシャンダ・ドリームライブラリーが、2008年8月21日に開館しました。これは、「少年ケニアの友」との共同プロジェクトです。

「アフリカ子どもの本プロジェクト」からは5名の会員（石塚和香子、さくまゆみこ、沢田としき、たかぎちほ、伏原納知子）が現地に赴いて準備（建物の整備と蔵書の整理、運営方針の話し合い）を行い、オープニングにこぎつけました。ケニアの新聞 DAILY NATION にもライブラリーの記事が掲載されました。蔵書数は約1400冊。この中には、一昨年に日本でみなさまに寄贈していただいた英語の本、寄付金を用いて現地で購入した本が含まれ、その3分の1がスワヒリ語の蔵書です。京都の会員が手作業でスワヒリ語のテキストをはりこんだ日本のアフリカ関連の絵本も、喜ばれています。

図書館の意味・目的やライブラリアンの役割をいかに伝えていくか、運営費用をどう捻出していくかなど、オープン後に見えてきた課題もあり、解決方法を模索中です。

3-3 「アフリカに関する児童書 おすすめリスト」完成

日本の子どもたちに、アフリカのことを伝える児童書のリストを作ろうと、2006年より会員の作家、翻訳家、司書、研究者、編集者などが本を読みあわせ、選んできましたが、とうとうリストが完成し、ホームページで公開しました。分野別に計93点（2009年3月現在）。

完成後も、新しく出版された児童書の検討会を定期的に持ち、リストの充実につとめています。

3-4 「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」開催

- ・横浜市中央図書館 2008年5月14日～30日
- ・堺町画廊（京都市） 2008年7月15日～20日
- ・大田区立洗足池図書館 2008年11月22日～24日
- ・ポレポレ坐（東京都中野区）2009年3月14日～30日
- ・横浜市立磯子図書館 2009年3月20日～4月3日

「アフリカに関する児童書 おすすめリスト」の本を出版社から寄贈していただき、解題カード、写真パネルや資料パネル等をそえた展示セットが完成。名づけて「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」。貸出団体の募集を開始し、2008年度は5か所で開催しました。

100点近いアフリカの本をいっぺんに見られる、ていねいな解題のついたわかりやすい展示は、たいへん好評で、今後の広がりが期待されます。

合わせて、会員の画家（沢田としき、伏原納知子、向井晶子、たかぎちほ）による絵ハガキセットを製作。1セット600円（5枚1組）で頒布しています。

3-5 その他

・アフリカの2つのドリームライブラリーに贈る英語の本の寄贈に関しては、西町インターナショナルスクールをはじめ、出版社、エージェントなど、継続的にご協力くださる団体があり、数回にわたって、ケニアに英語書籍を発送することができました。

4、2009年度の活動予定

4-1 2つのドリームライブラリーの運営への援助。

引きつづき寄贈本や寄付を集め、蔵書の充実をはかるとともに、図書館が人々に活用され地元に基づいていくように、図書館の利用状況の報告を受けながら、運営費の援助や、図書館運営への提言を行っていきます。

4-2 「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」開催

- ・杉並区阿佐谷図書館 2009年4月24日～28日
- ・アフリカン・フェスタ（横浜赤レンガ倉庫） 2009年5月16、17日
- ・遠野市民センター 2009年5月23、24日
- ・盛岡市西部公民館 2009年6月4日～11日
- ・高知こどもの図書館 2009年7月1日～29日
- ・熊本市県立美術館分館 2009年9月28日～10月4日
- ・中野区立中央図書館 2009年10月20日～24日

すでに7か所での開催が決まっています。引きつづき、貸出団体を募集しています。

4-3 「アフリカに関する児童書 おすすめリスト」のための選書の継続

引きつづき、新しく出版されたアフリカに関する児童書の検討会を定期的に持ち、リストの充実につとめていきます。

4-4 日本の子どもたちへの広報活動

「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」のほかにも、機会をとらえて、日本の子どもたちにアフリカのことを知ってもらう活動を続けていきます。

5、会計報告（2008.4.1～2009.3.31）

（省略）

6、寄付金や寄贈本を寄せてくださった方々

年度報告書は今回初めて作成のため、これまでに寄付を寄せてくださった方々のお名前をすべてあげさせていただきます。ありがとうございました。（50音順）

6-1 寄付金

<2008年度>

石塚潤子様、久住和代様、長澤立子様、バオバブ文庫様、羽生美枝子様

<設立時から2007年度まで>

石原伸子様、一杉香苗様、井上俊治様、岩崎書店様、浦城寿一様、小方桂子様、狩野弘子様、京都家庭文庫連様、すずき出版様、染川裕子様、田園調布学園中等部・高等部様、東京日本橋ロータリークラブ様、野本和子様、山越昌成様、山越万紀子様

6-2 ケニアへの図書寄贈者

アスラン書房様、アートン様、岩崎書店様、学習研究社様、佼成出版社様、こだまともこ様、小峰書店様、小学館様、庄司絵里子様、すずき出版様、徳間書店様、西内ミナミ様、西町インターナショナルスクール様、日本ユニエージェンシー様、BL出版様、評論社様、広田真志様、福音館書店様、フレーベル館様、前沢明枝様、光村教育図書様、山内美穂子様、ディケ裕子様

6-3 アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展 展示用図書寄贈出版社

明石書店様、あすなろ書房様、アスラン書房様、アートン様、岩崎書店様、岩波書店様、旺文社様、偕成社様、学習研究社様、河出書房新社様、佼成出版社様、講談社様、合同出版様、小峰書店様、さ・え・ら書房様、新日本出版社様、すずき出版様、筑摩書房様、汐文社様、徳間書店様、梨の木舎様、西村書店様、BL出版様、評論社様、福音館書店様、フレーベル館様、文溪堂様、ポプラ社様、ほるぷ出版様、光村教育図書様、理論社様